	令和7年1月 社会教育委員会議 議事概要
日 時	令和7年1月 24 日(金)午前 10 時~正午
場 所	教育委員室
出席者	<p>(出席委員)</p> <p>江下委員、田尻委員、大嶋委員、尾崎委員、兵頭委員、塩路委員、杉山委員、村田委員、山ノ内委員、和田委員 欠席委員3名</p> <p>(事務局職員)</p> <p>地域教育部 道場部長、堀次長</p> <p>まなびの支援課 北野課長</p> <p>中央図書館 大平館長、桑名参事</p> <p>文化財保護課 葉山課長、高橋館長、河島副館長</p> <p>青少年室 二宮室長、大川総括参事、市場所長、小川参事、廣田主幹</p> <p>青少年クリエイティブセンター 曾我館長</p> <p>まなびの支援課(運営) 太田課長代理、岡田主査、関係員</p>
	<p>◎会議の成立状況等報告</p> <p>市社会教育委員12名のうち出席委員9名</p> <p>吹田市社会教育委員会議規則第3条第6項の規定により会議は成立。</p> <p>傍聴者 なし</p> <p>◎会議資料</p> <p><資料(P1~32)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・吹田市立博物館 第4次中期計画について ・青少年クリエイティブセンター条例施行規則改正(施設予約システムの導入)に係るパブリックコメントの実施について ・太陽の広場委託モデル事業の進捗について ・読書バリアフリーコンソーシアムの吹田市事例の報告 <p><別紙1></p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市再生整備計画北千里小学校跡地周辺地区 事後評価資料 <p><別紙2></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度11月定例会 質問要旨等(地域教育部関係) <p><机上配布></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域教育部各種予定 ・特別企画展「おかしとくらしの学校」について <p>地域教育部 部長挨拶</p> <p>◎案件</p> <p>案件1 北千里小学校跡地複合施設整備に係る都市構造再編集集中支援事業の事後評価について</p>

《議長》

まちなかりビング北千里の利用者アンケートを行ったと聞いたが、アンケートの内容はどのようなものか。

《まなびの支援課》

市民意識調査と同様の内容で調査を5段階評価で行ったもの。

《委員》

満足度の数値についてはどのように変わったのか。

《まなびの支援課》

指標1～3については、目標を達成。

指標4コミュニティ活動の充実、指標5歩行者にとっての道路の安全性についての満足度が未達成であったため、2項目についてアンケートを行った。指標4については、73.4%の満足度が得られた。指標5は対面アンケートでも目標値には達していない。

《委員》

まちなかりビング北千里の来訪者だけを対象としてアンケートをしているが、市民意識調査等と条件が異なるがどう捉えているのか。

《まなびの支援課》

令和4年の市民意識調査結果は、当該施設を使用していない方の意見でも、既に目標値を超過していると考えている。

《委員》

北千里駅にアンケート票のQRコードを設置する等の方法がよいのではないか。また、子育て世代に特化した設問であれば、学校から保護者へアンケート票を配布することで多くの方の意見が得られると思う。

《まなびの支援課》

過去のアンケートでは、インターネットでの回答のハードルが高かったため、来訪者へのアンケート形式を採用した。

《委員》

まちなかりビング北千里来訪者を対象とした調査をされたということだが、回答者の年齢層がわからない。アンケート回答者は子育て世代の主婦層の方が多いと推察している。

《まなびの支援課》

来館者の年齢層は若年層より高齢者の方が多い。また、アンケート調査の結果も高齢者の回答の方が多い。

《委員》

令和4年度の市民意識調査結果に加え、令和6年度に追加調査を実施しているが毎年しているわけではない。毎年の経年変化も見た方が良いと思う。年齢別の傾向も把握しておきたい。

《まなびの支援課》

市民意識調査は市全体で行っている調査であり、4年毎となるが、その中で当該地域に関係するエリアの回答を抽出している。施設の効果検証のためには毎年実施することが望ましいと考えている。

《委員》

指標4における令和4年の市民意識調査結果と今回のアンケート結果が乖離している。恣意的に取られないようにする必要があるのではないか。

《まなびの支援課》

追加調査を実施した旨を補足するといった方法を検討する。

《委員》

各学校で学校意識調査を実施している。そこに併せてアンケートを実施するのはどうか。

《まなびの支援課》

可能性について関係所管等に確認する。

《議長》

高齢者や子育て世代、あるいは対象を限定しない座談会形式で地域の方の声をとる、まちなかりビング北千里ではなく、北千里駅やイオンの前で実施するなど、場所を考えてみることも検討いただきたい。

《まなびの支援課》

検証方法について大阪府とも協議し、事務局側で検討する。

《委員》

コミュニティ活動の充実について、捉え方が人によって異なる。具体的には、何を指しているのか。

《まなびの支援課》

地域の諸団体に属していて、そこに関して満足されているかどうかやPTA、サークル活動をされている方などは、その活動で地域との繋がりがりや幸せを感じるという方もいる。または文化祭などで地域の人と繋がることによる満足度を指標にしている。

《委員》

まちなかりビング北千里の管理・運営コストが入館者一人あたりどれくらいかかっているかを考えることが重要。コスト払っても使いたいという魅力的な施設にしてほしい。多くの方に来ていただきたいが、全ての方の意見を取り入れ、公平な施設にすることは難しい。その辺りについてどのように広報していくかを考えていく必要がある。

《まなびの支援課》

費用対効果や一人に対するコスト意識という視点は重要と考えている。

《委員》

指標5の歩行者にとっての道路の安全性について資料以外の地域についてはどうか。全体の平均はどうか。

《まなびの支援課》

回答者居住地別のデータはあるため、改めて回答させていただく。

《議長》

全体的なまちづくり方策で言えば、子育て世代と高齢者だけでなく、障がい者も考慮してほしい。本資料が市民に公開されたとき、どのように受け取られるかということを考えなければいけない。

《委員》

吹田市の特徴や利点があるため、一概には地域について言及することはできないが、高齢者からは若者が住むような街になってほしいと意見をいただくことが多い。まち

なかりビング北千里やその周りに焦点を絞るのではなく、市全体で持続可能な街にしていくことが望ましい。また、本資料では子育て世代のことを前面に出してきているが、千里ニュータウンは丘陵地で、アップダウンが激しいため、生活弱者や高齢者のことも含んだまちづくり方策を考えてほしい。

案件 2 吹田市立博物館 第4次中期計画について (P1-16)

《副議長》

施設見学も兼ねて博物館で本委員会等を開催してほしい。来館者数の目標数字はあるが、そのための具体的な方法を示してほしい。

《委員》

市民が行ってみたいと思う博物館にすることが望ましい。例えばカフェを設置したり、他市の成功例を調べてみるのはどうか。

《議長》

館内の展示について工夫をしていると感じているが、バリエーションが少なく感じる。

《文化財保護課》

貴重な御意見として検討させていただく。

案件 3 青少年クリエイティブセンター条例施行規則改正（施設予約システムの導入）に係るパブリックコメントの実施について (P17-20)

案件 4 所管からの報告

(1) 太陽の広場委託モデル事業の進捗についてほか (P21-22)

《委員》

両校の留守家庭児童育成室の在籍者数は。

《地域教育部次長》

両校ともに150人弱。

《委員》

留守家庭児童育成室に在籍しても太陽の広場にも登録できるか。

《青少年室》

登録できる。

(2) 読書バリアフリーコンソーシアムの吹田市事例の報告 (P23~)

次回会議にて報告

(3) 特別企画展「むかしとくらしの学校」について

次回会議にて報告

案件 5 その他

(1) 令和6年度11月定例会 質問要旨等（地域教育部関係）（説明省略）

(2) 地域教育部各種予定（説明省略）